

登録コード	A3594345	開講年度	2026					
授業科目	専攻研究					担当教員	加藤 新平	
英文授業名	Thesis Research							
単位数	2	講義期間	後期（随時）	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	3年生（研究室配属後の学生対象）	
講義室				授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】		
	2 0 2 2 Aカリ，2 0 2 1 Aカリ，2 0 2 0 Aカリ，2 0 1 9 Aカリ							
	【2022年度以前加わむ対象】専門的な知識や研究能力を修得している					植物の病害抵抗性機構および病原体の病原性機構について理解すると共に、それらを解析する技術を身につけている。		
	【2022年度以前加わむ対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している					植物の病害抵抗性機構および病原体の病原性機構について理解すると共に、それらを解析する技術を身につけている。		
	2 0 2 6 A3 編（24A），2 0 2 5 A3 編（23A），2 0 2 4 Aカリ，2 0 2 3 Aカリ							
	【2024年度以前加わむ対象】専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。					植物の病害抵抗性機構および病原体の病原性機構について理解すると共に、それらを解析する技術を身につけている。		
	【2024年度以前加わむ対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を修得している。					植物の病害抵抗性機構および病原体の病原性機構について理解すると共に、それらを解析する技術を身につけている。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	植物の病害抵抗性機構を分子レベルで解明し、病害抵抗性植物の分子育種や新規病害防除薬剤の開発に応用することを目指す。							
(5)授業計画	植物が持つ病害抵抗性機構を利用した新規病害防除法の開発を目指す。 1．植物の病害抵抗性機構の解明 植物には高度な病害抵抗性機構が備わっている。その機構を分子レベルで解明することを目指す。 2．病害抵抗性植物の分子育種 1で得られた知見を基に、遺伝子組換え技術を用いて病害抵抗性植物の作出を目指す。 3．新規病害防除薬剤（農薬）の開発 植物の病害抵抗性機構を利用することにより病害を防除する新規薬剤の開発を目指す。 ＊最後の15分間を授業アンケートに回答するための時間とします。							
(6)自主学習の指針	専攻研究は教員と相談しながら進める。必要に応じて関連資料を提示する。							
(7)成績評価の基準	専攻研究の内容を学術論文に準じた形式でまとめられれば「水準にある（可＝60～69点）」、学術論文に準じた形式でまとめた専攻研究の内容が学会で発表できるレベルであれば「やや上にある（良＝70～79点）」、学術論文に準じた形式でまとめた専攻研究の内容が国際学会で発表できるレベルであれば「かなり上にある（優＝80～89点）」、学術論文に準じた形式でまとめた専攻研究の内容が、一定レベル以上の英語の学術雑誌で発表できるレベルであれば「卓越している（秀＝90点以上）」と評価します。							
(8)事前事後学習の内容	研究の内容や方法について自主的に調べること。							
(9)テストやレポートの予定	テストやレポートは実施しない。							
(10)成績評価の方法	専攻研究発表と研究論文の内容で評価する。							
(11)質問、相談への対応および連絡先	随時対応する。							
(12)履修上の注意	世界の先端レベルを目指して取り組むこと。							
【教科書】	使用しない。							
【参考書】	適宜配布する。							